

R3 12月～R4 1月 豪雪対策特報

令和4年1月
JA 中野市営農センター

豪雪により、施設倒壊、果樹類の枝折れ等の被害が発生しました。被害に遭われた組合員の皆様にお見舞い申し上げます。今後は沈降による枝折れ、新たな積雪による枝折れや棚・ハウスの倒壊も懸念されます。つきましては、下記の対策等を早め実施してください。

1. 施設栽培復旧対策及び未然防止対策

- 施設の被害程度が大きく、ハウスが全壊や半壊となった場合は、パイプやビニール等の撤去・修復作業は融雪後に十分に安全を確保してから行ってください。
- 現状、被害がない場合でも、今後の降雪で被害が発生する恐れがあります。支柱等を多く設置して施設の補強を図ってください。
- 被覆資材を除去したハウスでは、ジョイント部分等（接合部）に積もった雪が屋根一面に積雪することがあるため、積雪が多くなった場合は雪を下してください。
- ハウス周辺の除雪や消雪剤散布を行い、ハウス上部の落雪を促進させてください。
- 燃料切れがないように注意してください。あわせて給油口付近の除雪を行ってください。
- 地上配管の接合部が雪の重みで外れ、重油がもれる心配があります。除雪を行い、バルブを閉めてください。

2. 露地栽培共通

- 果樹の立木や棚に積もった雪は、早急に落としてください。尚、果樹棚の雪の落とし方は、園の中央から外側に向かって、徐々に円を広げるように行い、斜形地の場合は下方から雪を落としてください。
- 棚が倒壊した場合は、樹体被害を最小限にするために早めに支柱で棚を起こしてください。また、すぐに棚が起こせない場合は、主幹・主枝などの分岐点に損傷が発生しないように重要な枝だけでも支柱で起こしてください。
- りんごわい化樹の下枝は、掘り上げや融雪剤散布、スコップによる掘り割り等を行い被害防止してください。
- 太枝が完全に裂けた場合は、切断面を滑らかに切除し癒合剤（トップジン M ペースト等）を塗布して乾燥や枯れ込みを防止してください。
- 雪の表面に融雪剤、黒土、焼モミガラ、木灰など有色のものをまいてください。また、雪面に凹凸のうねをつけ大気と接触する表面積を大きくして融雪を促進してください。
- 融雪水が多くなりますので、排水溝や明きよを掘って、圃場外へ排水してください。

3. 施設栽培共通

- 加温設備があるハウスでは加温機をフル稼働し谷間の融雪を行なってください。ビニール等内張りカーテンがある場合は、カーテンを20 cm程開けてハウス全体の温度を上げるようにしてください。
- 無加温ハウスは、ハウス間の通路の除雪や雪の溜まる部分の常時雪下ろしを行ってください。併せて、中柱で補強も行ってください。

【お知らせ】

- ① 復旧資材：木柱・消雪剤・癒合剤（トップジン他）上記資材は営農資材店に用意してあります。ご利用ください。
- ② セルフジャッキ：無償で貸し出しをしています。営農センター園芸課までご連絡ください。（TEL 23-3933 まで）
- ③ 補植苗木：注文等は資材課までお問い合わせください。
- ④ 相談窓口：営農センター
- ⑤ 現在、営農センターで被害状況を調査しています。新たな被害がありましたらご報告ください。

～裏面もお読みください。（雪害を被った場合の応急対策）～

参考：雪害を被った場合の応急対策

1. りんご・もも・核果類などの立木

- ① 太枝が完全に裂けたものは、切断面を滑らかに切除し、トップジンMペーストを塗布して癒合を早めるとともに乾燥や枯れ込みを防止してください。
- ② 主枝分岐部・骨格枝分岐部分が大きく裂開したもので接合できるものは支柱で持ち上げて補強し、カスガイ・ボルト・縄 等で固定してください。接合部の癒合を早めるために、接合したあとトップジンMペーストを塗布してから、雨水の侵入や乾燥を防ぐためムシロやシルバーフィルム等で覆ってください。

2. ぶどう棚・梨棚・プラム棚・ハウスなどの施設

- ① 棚が倒壊した園地は、とりあえず樹体被害を最小限にするため早めに支柱で棚を起こす。
- ② すぐに棚が起こせない場合は、主幹・主枝等の分岐点に損傷が発生しないように重要な枝だけでも支柱で起こす。
- ③ 主枝分岐箇所などが裂けてしまった場合は縄などでそれ以上裂けないようしっかり縛る。
- ④ 棚上にも雪がある場合は棚上にも消雪剤をまく。

果樹棚の雪降ろしの方法

ぶどう棚の雪降ろしの最中に、棚が倒壊する事例があります。棚にかかる重量バランスが崩れ、一部に重さが集中し、そこから倒壊したと思われまます。今後、ぶどう、梨、プラムなど果樹棚の雪降ろしをする時は、次に注意して行ってください。

- ① 平坦地では、棚の中心部から外側に向かって、徐々に円を広げるように雪を降ろしてください。(図1)
- ② 傾斜地では、坂の下部分～上部分と2～3に分け、坂の下側からそれぞれの部分の雪を降ろしてください。(図2)
- ③ 数人で作業する場合は、互いにバランスを取りながら雪を降ろしてください。特にAマストの棚の支柱が傾いている場合は、雪降ろしにより支柱が倒れることがありますので、支える等の工夫をしてください。

図1 平坦地での雪の降ろし方

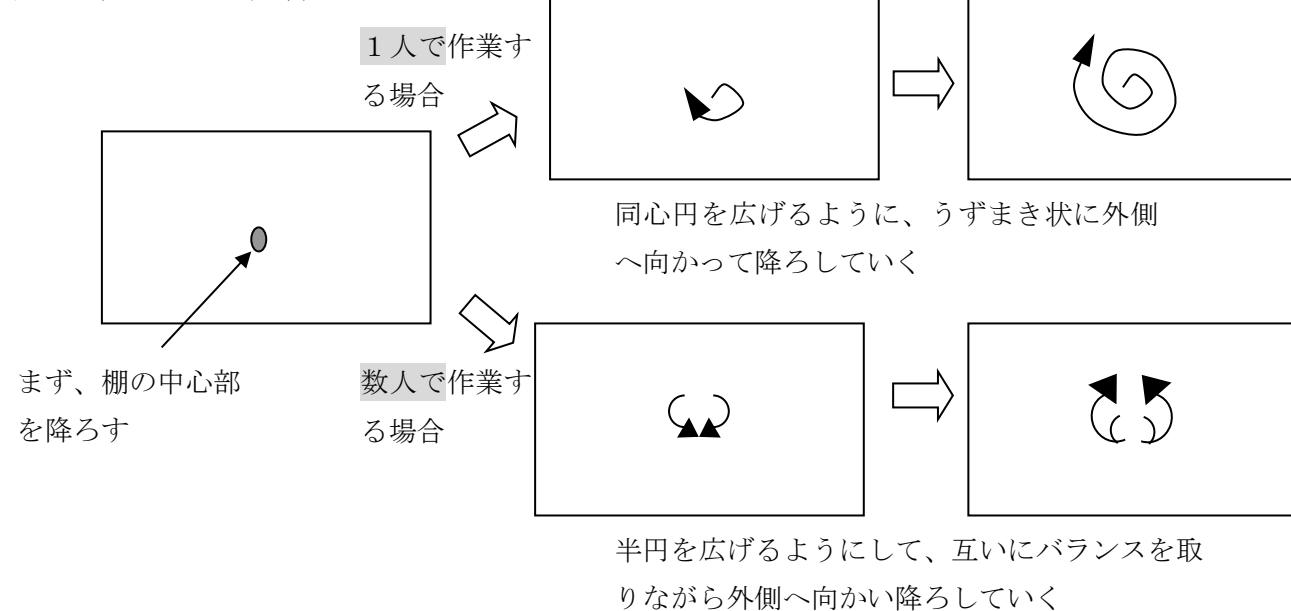
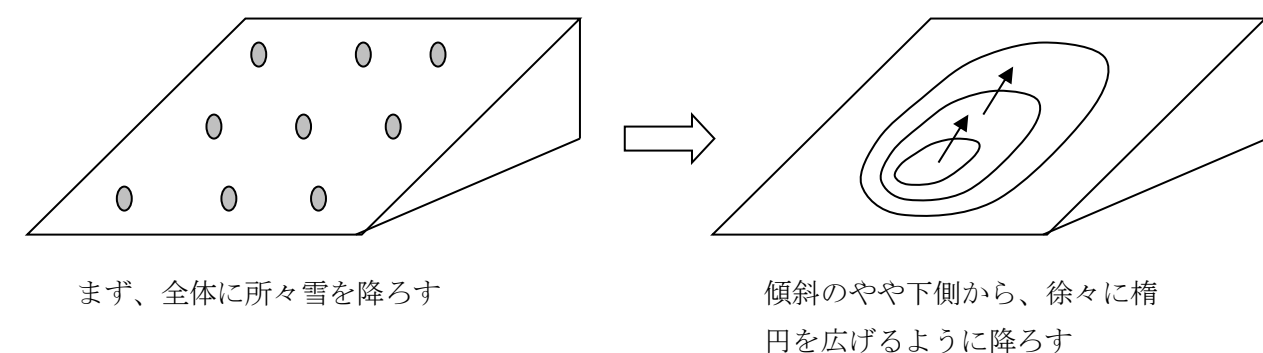


図2 傾斜地での雪の降ろし方



注意！

- ① 棚の端から雪を降ろしていくと、残った部分に重さが集中し、倒壊しやすくなります。(特に、湿った雪が多く積もった場合)
- ② 上図は基本です。雪の状況に応じて、臨機応変に雪降ろしを行ってください。